

お坊さんでスクールカウンセラー

さかい ゆうえん
坂井祐円 著 ▼四六判並製カバー・九二頁本体一、八〇〇円十税

2018年4月刊行



緊急支援、喪の作業、不登校、ひきこもり……。僧侶でもある著者が小中高のスクールカウンセラーとして、相談者の苦しみや悲しみに寄り添ってきた、死者と出会っていく7つの物語。死をタブー視する学校の空気に風穴をあける、異色の仏教エッセイ。

読者対象：中学生以上

【目次】

プロローグ

第1章 死と誕生をめぐる話

「わたし、死んだらどうなるんだろう?」「生まれてきてよかったのかと悩んでいた女子中学生がつぶやいた。」

第2章 いのちより大切なもの

「いのちが一番大切と思っていたときは、生きることが苦しかった」急性骨髄白血病の看護学生がたどりついた、生きる喜びの世界

第3章 傍らにいて、ともに悲しむ

「先生、あいつが死んだことは悪いことなのか?」ある日、生徒がひとしれず命を絶った。

第4章 世界は輝きに満ちている

「もしかしたら、私はあの子の面影ばかりを探していたのかもしれない」息子を事故で失った母が、生きる希望を見出すまで。

第5章 不登校と幽霊

「私、以前から舅の幽霊に悩まされていてまして……」息子の不登校に悩む母親が、おそるおそる打ち明けてきた。

第6章 死者の夢

「お母さん、心配しなくていいよ。きっと、うまくいくからね」夢に現れたのは、一五年前に亡くなった息子だったのか!

第7章 読経の音が響き渡る

「ぼくは、おばあちゃんの葬式に出て、みんなで正信偈読んだとき、泣いちゃったんですよね。お経でおばあちゃんにつながる事ができたって」

エピローグ

あとがき

◆著者略歴

一九七二年新潟県に生まれる。大谷大学大学院(仏教学)、愛知学院大学大学院(臨床心理学)を経て、京都大学大学院教育学研究科博士課程修了。博士(教育学)。臨床心理士。真宗大谷派僧侶。南山宗文化研究所非常勤研究員、新潟県立看護大学非常勤講師、同朋大学大学院講師。普段は、自坊にて仏事を勤める傍ら、新潟県内および長野県内の小学校・中学校・高校で、スクールカウンセラーをしている。著書に、『仏教からケアを考える』(法蔵館・二〇一五年。共著に『西平直・中川吉晴編』ケアの根源を求めて(見洋書房。二〇一七年)他。

注文書	
(書店印)	様冊
ご担当	法蔵館
坂井祐円著	本体一、八〇〇円十税
お坊さんでスクールカウンセラー	住所
ISBN: 978-4-8318-8767-2 C0015	お電話
お名前	

ご注文はFAX: 075-371-0458

法蔵館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp

仏教